

# 石川県リハビリテーションセンターニュース

## ～令和元年度事業等について～

### 目次

最新情報を提供する自立支援機器情報交換連絡会の開催	1
リハビリテーション技術支援のネットワークづくり	2
リハビリテーション専門職に関する研修事業	3
難病相談・支援センター事業	4
高次脳機能障害相談・支援センター事業	5
福祉用具の研究開発支援	6

## 最新情報を提供する自立支援機器情報交換連絡会の開催

平成29年度より、障害のある方や高齢者の自立生活や社会参加を目指し、福祉用具メーカーの協力を得て、最新の自立支援機器について情報交換ができる自立支援機器情報交換連絡会（以下、連絡会）を開催しています。年3回の定期開催の他に、メーカーの来県に合わせて臨時に開催し、必要な情報を発信しています。

今年度は、表に示すテーマで自立支援機器の最新情報を提供しました。参加者は実際に機器に触れることができ最新のカatalog等も入手できる機会となり好評を得ています。会場では各メーカーへの質問や、活用方法に対する意見交換など、和気あいあいと交流する様子がみられ、メーカーと県内業者とのつながりの場にもなりました。

当センターでは、日々進化する機器について、情報交換できる場としてこの連絡会を充実させていきたいと考えており、各メーカーの来県や有用な支援機器の情報を入手した際には、随時メールで案内しています。現在、当事者やリハビリテーション専門職（以下、リハ専門職）、福祉用具専門相談員など、60名以上の方々が登録し、参加しています。

今後も連絡会の案内や福祉用具の最新情報を発信していきますので、より多くの方々に、ご登録をしていただきたいと思います（下記参照）。

今年度の内容と参加者数

テーマ	開催日	参加者数
起居・移乗用具	7月18日	64名
排泄・入浴用具	8月20日	36名
コミュニケーション用具	11月13日	46名
車椅子、クッション、マットレス	12月4日	28名
介護ロボット(介護ロボット石川フォーラム2019)	2月16日	450名



自立支援機器使用体験の様子

案内をご希望される方は、登録を希望する施設もしくは個人のメールアドレスから、当センターのメールアドレス（[iprc@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:iprc@pref.ishikawa.lg.jp)）へ申請をお願いします。折り返し登録方法をご連絡します。

# リハビリテーション技術支援のネットワークづくり

## 1 在宅リハビリテーション検討会（事例検討）

在宅医療の推進や、医療と介護の連携が求められる中で、県内どの地域の在宅生活者でも、最適なリハビリテーション技術支援（以下、リハ支援）を受けられる体制づくりを目指し、平成29年度から、県内の能登北部、能登中部、南加賀、石川中央東（かほく市、津幡町、内灘町、金沢市）、石川中央西（白山市、野々市市、金沢市）の5会場にて、身近な地域における支援者同士のネットワークづくりの強化を目的とした「在宅リハビリテーション検討会」を実施しています。

平成29年度は、各地域において子どもからお年寄りまで様々な障害のある方に対し、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハ専門職による在宅リハ支援を提供できる医療機関や事業所の紹介と意見交換を行いました。平成30年度は、医療から地域への連携を意識し、各地域の様々な入院リハ支援から在宅リハ支援を紹介していただきました。

今年度は、これら地域のリハビリテーション資源を踏まえ、各地域の事例を通して、リハ専門職と医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員、相談支援専門員等が合同で各地域の事例について検討しました。前半は、事例の「現在」と「数年後」の課題を抽出し職種間の視点の違いを学び、また、後半の対応策については、助言者の方々より医療・福祉の見地から深い助言をいただき、各々の視点を理解した上で支援を考える有益な場となりました。

県内全体で約120名の参加があり、アンケート結果からは、医療・保健・福祉の多職種の考えの幅の広さを実感し、多職種で検討することの大切さがよく分かったとの感想を多くいただきました。当センターでは、引き続き在宅におけるリハ支援の充実を目標に連携体制づくりに努めていきたいと考えていますので、今後とも関係機関の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

### ●在宅リハビリテーション検討会のプログラム

各地域の事例（進行性難病、重度身体障害者）への対応策の検討を通して多職種連携、同職種連携について考える。

- ・相談支援専門員、介護支援専門員からの事例提示
- ・同職種（職種別）でのグループワーク（課題の抽出）
- ・多職種でのグループワーク（対応策の検討）

### ●助言者

<医師の立場から>

国立病院機構 医王病院 院長 駒井 清暢 氏  
国立病院機構 医王病院 統括診療部長 高橋 和也 氏

<医療ソーシャルワーカーの立場から>

金沢大学人間社会学域地域創造学類  
非常勤講師 馬渡 徳子 氏  
国立病院機構 医王病院  
医療ソーシャルワーカー 中本 富美 氏



検討会の様子

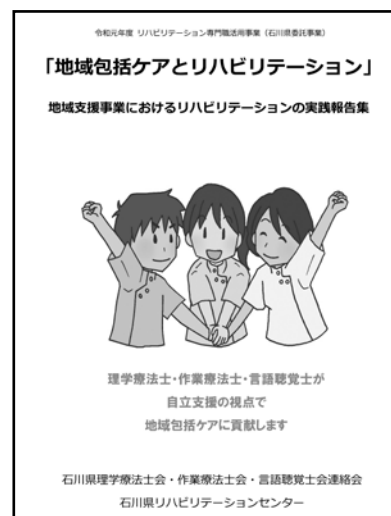
## 2 市町事業に関わるリハ専門職連携体制づくり

平成27年度より市町事業の理解を促し、各市町が実施する地域支援事業の要点を押さえたリハ専門職の資質向上と支援組織の充実を目指して、石川県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡会と当センターとの協働により人材育成のための体制を整え、研修会を開催してきました。

結果、研修修了者を各職能団体から理学療法士25名、作業療法士26名、言語聴覚士18名を市町事業に関与できる協力者として、当センターのホームページに掲載することができました。

さらに、今年度は「地域包括ケアとリハビリテーション」と題して、地域支援事業におけるリハビリテーションの実践報告会を開催し、その実践内容を参考事例として紹介する「報告集」を発行することができました。

今後も各市町の地域支援事業でリハ専門職が活躍でき、資質の維持・向上が図られるように、職能団体と協働してさらなる支援体制の強化に取り組んでいきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。



報告集(表紙)

# リハビリテーション専門職に関する研修事業

## 1 自立支援機器スペシャリスト実践研修

当センターでは、医療・在宅の現場で自立支援機器の適合を実践できる人材育成を目的に、今年度から2年計画で「コミュニケーションに関する支援（以下、支援）」をテーマに、実践的な知識と技術を身につける研修会を全3回のコースで実施しました。

約30名の方が参加し、第1回目は講義とワークショップを実施し、適合技術の学習とコミュニケーション機器の使用体験をしました。第2・3回目は2人の当事者にご協力いただき、支援をするためのアセスメントから生活に必要なコミュニケーション機器の適合についてグループワークを行いました。さらに、当事者を交えて、実際の支援をどのように実施しているのかを報告してもらいました。全3回を通して、参加者からはコミュニケーション機器を提供するだけでなく、対象の方の生活を見据えた上で、様々な支援の提案・提供が必要であることを理解できたと好評でした。

日々仕事をしている中で、これまで以上にコミュニケーション支援が必要な方が増えていると感じています。そのため、来年度も同テーマで全3回の研修会を行う予定ですので、ぜひ参加していただき、日々の業務に役立つ知識と技術を学んでください。



松本琢磨氏の講義



グループワークの様子



当事者へのインタビュー

## 2 失語症意思疎通伝達事業の普及に向けて

国が平成30年度に失語症者に対する意思疎通支援者の養成を都道府県必須事業としたことを受け、当センターにおいても、事業の普及のため県言語聴覚士会（以下、ST会）と連携し、リハ専門職に対し研修を実施しました。本研修では「NPO法人 言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会 和音」の宇野園子氏を講師に招き、失語症の方の生活のしづらさと意思疎通支援の必要性、和音主催の会話パートナー養成研修について講義していただきました。

また、ST会の田畑美香氏から県内で取り組んでいる活動について報告があり、その活動の一つの「失語症カフェ」は、当事者と支援者が気軽に集う場となっており、当センターが関わっている失語症の方にもご参加いただくことができました。



宇野園子氏の講義



田畑美香氏の講義



会話支援のためのリソース手帳

## 3 自動車運転再開への取り組みについて

高齢者や障害のある方の運転再開は、医療機関だけでなく社会全体としても重要な課題で、医療と行政が連携して進めていく必要があります。本研修では、産業医科大学の加藤徳明医師から自動車運転再開に向けて医療機関が行うべき評価、指導や教育の必要性について、県警運転免許課の釜親文彦氏からは石川県における適性相談の状況について、ご講義いただきました。

参加者は約70名と多く、質疑も活発に行われ、参加者からは医療と行政の情報を知ることができ、自分のなすべきことがよく理解できたと好評でした。



加藤徳明氏の講義

### 運転免許課から支援者の方へ

脳卒中等の一定の病気や身体障害のある方の自動車運転の可否については、その方の状況に応じて必要な手続きをご案内しています。本人・家族だけでなく支援者の方からも、ぜひご相談ください。

安全運転相談ダイヤル # 8080  
または  
石川県警察本部 交通部運転免許課  
076-238-5901

## 難病相談・支援センター事業

難病相談・支援センターでは、難病患者さんご家族が抱えている病気や日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、専門医や保健師、心理相談員等による相談をはじめ、同病者との交流支援や就労支援、医療講演会や研修会、福祉制度に関する情報提供、福祉用具や住宅環境の調整等に関する相談支援を行っています。

### 1 難病患者団体等連絡会の防災学習会

難病患者団体の代表者と事業や団体運営についての連絡会を開催していますが、その中で昨年度から、防災をテーマとした学習会を行っています。

防災士である患者団体の代表の方に講師をお願いし、「難病・小児慢性特定疾病患者及び家族が災害に備えるということ～最近の災害から普段の備えや確認すべきことを考える～」と題した講演の後、意見交換と災害用食品の試食を行いました。いつどこで起こるか分からない災害に防災意識を持ち、自分の住む地域の情報を確認して、家族・支援者と相談しておく、防災訓練に参加する、まずは近所の人とつながることなど大切なことを確認しました。

災害時、要援護者となりうる患者さんとそのご家族が安心して生活できるよう、今後も学習を重ねていきたいと思っております。



学習会の様子

### 2 難病ピア・サポーターの養成と活動支援

難病ピア・サポーターとして現在18名の方が登録されています。ピア・サポートは仲間（ピア）としてお話を聴き、互いの経験を語り分かち合う支え合いの活動です。登録ピア・サポーターは養成講座を修了した難病患者さんご家族です。パーキンソン病、脊柱靭帯骨化症、特発性拡張型心筋症、重症筋無力症、シェーグレン症候群、網膜色素変性症など様々な疾患のサポーターが相談をお受けします。ピア相談を希望する方がおいでになりましたら、当センターまでご連絡ください。

今年度は難病ピア・サポート講座において、慶応義塾大学看護医療学部加藤眞三教授による特別講演「患者の力」を開催し、患者の持つ力を再認識しました。難病ピア・サポーターの力をお借りし、患者さんやご家族の不安を少しでも軽減できるよう、引き続き支援してまいります。



加藤眞三氏の特別講演

### 3 小児慢性特定疾病児童等自立支援事業～専門医等相談会・交流会～

当センターでは、小児慢性特定疾病の児童及びその家族の方等を対象に、専門医等による講演会を実施し、併せて療養生活の相談・助言や交流会を実施しています。

今年度は、膠原病、小児がん、てんかんのご家族を対象に実施し、幼児から大学生の幅広い年代のお子さまのご家族が参加されました。

参加者からは「漠然とした不安や心配が減り良かった」「前向きに治療していけばよいと思えた」「他のお母さんの話も聞いて良かった」などのお声をいただきました。

また、医療的ケアが必要な患者家族会への支援として、家族交流会及び学習会をスマイルの会と共催にて実施しており、家族ができる医療的ケア児の体調管理や医療的ケア児と家族のリラクゼーションをテーマに学習会を実施しました。

今後も慢性疾患の子どもたちが療養しながら成長し、自立していくための相談会等を行ってまいりますので、関係の皆様のご支援とご協力をお願いいたします。



専門医による講演会の様子

### 南加賀地区で在宅医療をしている障害児と親の会 スマイルの会

年に数回、情報交換をしたり、親子でできる療育を企画しています。子供たちの体調や医療ケアが改善するように、講師を招いて勉強会を開いています。きっとみんなでスマイルになれる日が来る。そう信じて、一緒に前に進んでいきませんか？お気軽にご相談ください。

## 高次脳機能障害相談・支援センター事業

高次脳機能障害相談・支援センターでは、ご本人やご家族が安心して充実した生活を送ることが出来るよう、個別相談をはじめ、教室や講演会の開催、支援者向けの研修会等各種業務を行っています。

### 1 高次脳機能障害支援担当者研修会

当センターでは、地域における高次脳機能障害者の支援の輪を広げるため、平成29年度より介護支援専門員などの地域の支援者を対象に研修会を行ってきました。

例年は県内1か所の開催ですが、今年度は県内3か所での開催にしたところ、これまで会場から遠く参加率が低かった能登地域等での参加者も増え、県内全域の知識の普及につながったと考えます。

また、開催地域のリハビリテーション医師を講師に迎え、地域の取り組みについて紹介していただくなど、顔の見える関係づくり、地域での支援体制づくりの強化となるよう工夫しました。

参加者からは「支援の手がかりが見つかった気がする」「明日からの支援に活用できる」などの感想をいただき、有意義な研修会となりました。また、参加者の経験年数は10年以上の方が最も多く、どの経験年数の方でも基本編を学べる機会として、今後も同研修会を継続開催していくことが重要と考えています。



川北慎一郎氏の講義



池永康規氏の講義

### 2 出前講座「もっと知ってほしい高次脳機能障害」

今年度より、地域で福祉活動に携わる自治会やNPOなどの各種団体を対象に、高次脳機能障害の理解を深め、よりよい支援を広げていくことを目的に出前講座を開催し、民生委員などを対象に講座を行いました。

参加者は高次脳機能障害について聞いたことがなかったという人も多く、地域の普及啓発につながったと考えられます。アンケートでは、「初めて聞いた障害名であるが、知っておくべきことだと思った」「今日知ったことを活動のなかで活かしていきたい」などの感想をいただきました。

出前講座の申し込みは随時受け付けています。希望される団体がございましたら、ぜひ当センターまでご連絡ください。



出前講座の様子

### 3 生活支援教室（グループプログラム）の取り組み

高次脳機能障害のある方の家庭生活の自立や社会参加に向けて支援しています。自身の障害について理解を深める代替手段を獲得することなどを目標としたグループプログラムです。当センターで支援している方が対象となりますので、まずはご相談ください。

#### 学習・課題の内容

- ・脳損傷・高次脳機能障害について知る
- ・自分の得意なことをまとめる
- ・展望的記憶課題
- ・話を聴く練習

#### 今年度はこんな方が参加されました

年齢：20歳代から50歳代  
性別：男性が多い  
目的：復職、再就職に向けて  
転帰：復職、就労移行支援、就労継続支援B型の利用など

## NPO法人高次脳機能障害患者と家族の会 つばさ



《会員構成》石川県内の高次脳機能障害がある当事者及びその家族

《活動目的》高次脳機能障害が社会に理解され、この障害があってもその人らしく生きて行くことができるよう、皆様の相談に応じて、地域で安心して暮らせるように、医療、福祉、就労、教育などの関係機関と連携し支援を行うことを目的とし、皆で力を合わせてがんばっています。

※同じ悩みを持つ仲間がいます！この障害で悩んでいる方は、ぜひ一度ご参加ください。

## 福祉用具の研究開発支援

バリアフリー推進工房では、医療・福祉機関や企業、行政・団体等における福祉用具やユニバーサルデザイン等の相談・支援に応じるとともに、これまでに蓄積した障害のある人の生活ニーズや身体特性、支援技術等の整理を進め、福祉用具、住環境、ユニバーサルデザイン製品に関する研究や企業・行政との共同開発を行っています。

その一つとして、当センターが実施している生活支援の課題を分析し、自分で姿勢変換可能で、狭い屋内でも楽に走行操作ができ、木造床面や段差解消機、車への乗降装置にも対応した軽量コンパクトな電動車椅子の開発に取り組んできました。対象となるユーザに評価・協力をいただきながら、(株)今仙技術研究所と共同で実用化を進め、右の写真に示すモデルが今年4月に製品化、販売予定となります。

この電動車椅子が、少しでも多くの方々の生活の自立や社会参加の促進に役立つように期待しています。



共同開発した電動車椅子

### 自分で姿勢変換できる

- ・前傾も可能な電動ティルト機能 (-3 ~ 30度)
- ・フルリクライニング近くまで可能な電動リクライニング (90 ~ 160度)

### 良好な姿勢を保持しやすい

- ・身体を包み込むような骨盤支持と背張り調整機能
- ・背を倒した時に疼痛が出ないような肩甲帯の支持

### 多様な操作方法に対応できる

- ・通常のジョイスティックのほか、小型ジョイスティックやスイッチ操作 (スキャン選択) に対応
- ・操作感度や操作範囲を調整できる



### 狭い屋内でも楽々移動できる

- ・旋回性の高い中輪駆動 (6輪構造)
- ・コンパクトな全長 (96cm) と全幅 (54cm)
- ・加速度などの走行特性を調整できる

### 軽量で段差解消機や車への乗降装置を利用できる

- ・軽量 (約 50kg) のため、木造床面や各機器の耐荷重をクリア

### 介助者にも扱いやすい

- ・手動車椅子と同様な座面の高さ (41cm) で、介助移乗がしやすい
- ・軽量で旋回性が高く、介助移動が楽にできる



## ヘルプマークを知っていますか？

ヘルプマークは、難病や内部障害など援助や配慮が必要な方が、日常生活や災害時にそのことを周囲に知らせるマークです。マークを身に着けた方を見かけたときは、ぜひ思いやりのある対応をお願いします。

※東京都が考案して JIS 化され、全国で普及が進んでおり、石川県でも配布しています。

配布場所：県障害保健福祉課、各市町福祉課、県保健福祉センター、県リハビリテーションセンター 等

### 問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>

難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

### 「相談は傾聴、親身、親切に」

リハビリテーションセンターでは、県民ニーズに応えるため、より質の高いサービスの提供を目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター

〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1